

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

渡辺議員。

○7番（渡辺栄一君）

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（保坂 悟君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

ここで昼食時限のため、休憩といたします。

再開を1時10分といたします。

〈午後0時05分 休憩〉

〈午後1時10分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、阿部裕和議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。〔2番 阿部裕和君登壇〕

○2番（阿部裕和君）

みらい創造クラブ、阿部裕和でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、みらいを見据えた行財政改革の実施状況と今後の取組について。

(1) 財政健全化に向けた中長期の計画について伺います。

(2) 市が保有する施設の様々な情報をまとめた施設カルテには「あり方の検討」を進めなければならない施設が数多く記されています。検討状況を伺います。

(3) 保育園の民営化及び適正配置については検討が進められていますが、小学校についての適正配置の検討はされているか、検討状況と併せて市としての構想を伺います。

(4) 補助金カルテを作成し、その目的及び費用対効果の確認作業を進めているところと思いますが、今までの取組の成果を伺います。

(5) 市外からの利用者が多い施設について、市内住民と市外利用者の料金設定を変更することが必要だと考えます。今後の対応について、お考えを伺います。

(6) 若手職員も積極的に市政運営に関わり、若い視点からの意見を反映させ、事業展開させていく必要があると考えます。市政運営において、若手職員の意見やアイデアがどの程度政策や事業に反映されているか伺います。

2、観光振興について。

(1) 糸魚川市を訪れる観光客の主な目的や興味について、どのように把握されているか伺いま

す。

- (2) 北陸新幹線開業から10年がたとうとしていますが、乗降者数は若干の減少傾向となっております。北陸新幹線の利用を促進するために、現在展開されている具体的な施策と展望を伺います。
- (3) インバウンド客や新幹線利用者を始めとした観光客にとって、観光案内や交通インフラは使いやすいものに整備されているか伺います。
- (4) 糸魚川駅周辺の宿泊施設が不足しており、宿泊先が確保できなかった観光客は市外へ流れている状況が続いています。市外流出を防ぐ取組及び宿泊施設不足解消に向けた取組について伺います。
- (5) 糸魚川駅近くの日本海展望台のリニューアルに向けた整備計画の進捗状況を伺います。
- (6) 大阪・関西万博では会場中央部に位置する「静けさの森」や「迎賓館」にてヒスイの展示が予定されています。このヒスイを活用し、観光誘客をはじめ糸魚川市の発展に寄与する取組の計画があるか伺います。

3、ヒスイの保護と青海川硬玉産地整備基本計画の進捗について。

- (1) 海岸を除く河川でヒスイ採取をしないよう、自粛を呼びかけていくと報道がありましたが、現状では強制力もないため、ヒスイの採取が続くことが危惧されます。河川でのヒスイ採取に対し罰則規定を設け、ヒスイの保護を徹底する必要があると考えますが、市としての考えを伺います。
- (2) ヒスイの採取禁止に関して具体的な罰則規制を導入する場合、どのような手続や法的措置が必要となるか伺います。
- (3) ヒスイ峡から保護したヒスイが市内各所にありますが、これらについても盗掘防止を目的とした監視体制の強化や監視カメラの設置など、対策を講じる必要があると考えます。今後の対応について伺います。
- (4) 青海川ヒスイ峡の整備について進捗状況を伺います。
- (5) 青海川ヒスイ峡と小滝川ヒスイ峡を結ぶ林道開設についての調査結果と今後の取組について伺います。

以上、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

阿部議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、4年度から8年度までを計画期間とする第4次糸魚川市行政改革大綱に基づき、30年先も持続可能なまちづくりを目指して、行財政改革に取り組んでおります。

2点目につきましては、現在、施設カルテの更新作業を行っており、今後、評価を実施し、各施設の方針を検討してまいります。

3点目につきましては、保護者との懇談や公立保育園の民営化に興味・関心のある民間事業者の可能性調査を実施いたしております。また、小中学校の適正配置についても庁内検討を行っており、

連携しながら具体的な検討を進めてまいります。

4点目につきましては、新年度予算編成時に、補助金の目的や実施状況を把握し事業成果を確認いたしております。

5点目につきましては、受益者負担の原則に基づき、公共施設の使用料見直しが必要と考えており、市外利用者の料金設定についても併せて検討してまいります。

6点目につきましては、日々の業務の中で各所属において、若手職員の意見等も聞きながら事業展開を図っているほか、随時、職員提案も募集しており、引き続き、よいアイデアは施策に反映してまいります。

2点目の1点目につきましては、糸魚川ジオパーク観光動態調査において、親不知やフォッサマグナパークなどの自然景観、カニをはじめとした食、また温泉などに興味を持ち、来訪されると把握いたしております。

2点目につきましては、3年度以降、乗降者数は増加傾向にあり、駐車場利用者への支援のほか、新幹線通学や糸魚川駅発着ツアーへの助成など、様々な面から利用促進に取り組んでおります。

3点目につきましては、鉄道から路線バスなどへの接続は確保しておりますが、インバウンドの利用促進に向けては、観光案内や決済方法、二次交通などのさらなる充実が必要と考えております。

4点目につきましては、新たな宿泊施設建設の情報があることから、今後の動向について注視してまいります。

5点目につきましては、現在、関係者と協議を重ねながら設計を進めております。

6点目につきましては、県では静けさの森のヒスイ原石を紹介するARアプリの導入を予定していることから、これらと連携した観光誘客に取り組んでまいります。

3番目の1点目と2点目につきましては、強制力のある罰則規定は、利害関係者の調整や法的手続に時間と労力がかかるため、現時点では、採取者へのマナーの周知徹底が現実的で、即時性が高いと考えております。

3点目につきましては、市民や関係機関と連携を図る中で、盗掘防止などの対策を強化してまいります。

4点目につきましては、整備計画について、文化庁と協議を進めており、7年度から整備を開始する計画といたしております。

5点目につきましては、調査の結果、環境アセスメントの許認可や地滑り対策に多額の整備費と維持管理費を要することなど課題があることから、引き続き検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

まず、1点目、未来を見据えた行財政改革というところでお聞きいたします。

これから人口減少が進み、財源は減る一方であるというふうと考えております。この限られた財政の中で、より効率的にお金を使っていかなないと、市民が暮らしやすいというふう実感できる行

政サービスの提供は、困難になってくるというふうに思っております。この行財政改革を進めることは、ただ単に財政の健全化を図るだけではなく、それと同時に糸魚川市の未来を見据えた投資をしていくということにもつながっているというふうに思っております。そういう考えの下、これより質問させていただきます。

今ほど行財政改革は、大綱のほうで令和8年度まで見据えて、30年見据えてということだったんですけども、この財政健全化に対して、いろんなものを策定されてると思います。施設カルテであったり公共施設の管理指針というものがいろいろある中で、財政健全化に特化した計画というものが見当たらなかったんですけども、ここにもいろんなものと連動した財政健全化に特化した計画を策定することで、より前に進むんじゃないかというふうに思うんですけども、いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

財政健全化に特化した計画ということでございます。議員の言われたとおり、今後、行政改革を進めていく上では、市民の皆様からもよく理解をしていただくというようなことが必要で、そういった視点を持って作成することが必要なだろうと。

また、行政改革大綱というものが、やはり1番のところに私どものほうでは位置するところとも考えておりますので、そちらのほうとの構成内容などを含めて検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

この改革を進める上で公共施設の維持管理というのは、本当に重要な課題であるというふうに捉えています。施設カルテの中でも、在り方の検討というところにマークしている施設が多々あるんですけども、この在り方の検討を進めなければいけないという施設について、具体的な検討というのはどの程度進んでいるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

検討となった対象施設でございます。インフラ施設等につきましては、今ほど包括民間委託であったり、官民連携の取組など、長寿命化計画の策定などということで検討を進めているところ、策定を進めているところでございます。

また、インフラ以外の、いわゆる公共施設の施設につきましては、主に施設所管課において、対

象施設の現状を分析をしているという現状でございます。

ただ、そこからもう一歩進んで、検討委員会など協議の場で施設の方向性について検討してるところもあるという現状でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

その一歩踏み込んだ議論をしている施設というのは、具体的に何施設ぐらいあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

今、具体的に施設の用途、目的、内容では、1か所、施設が上げられるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

個別の案件に入っていくつもりもございません。大枠で、今後どういう方向性で進めていくかというところなんで、また担当課でそういう話は伺いたいと思います。

この施設カルテを作成する前段階、施設カルテができる前段階で、施設評価というのをやっていると思うんですけども、これ私ちょっと見させていただいたら、施設の耐久性であったり性能、利用状況と必要性という2つの指標によって施設評価を行っているというふうに記載がありました。その中でも、現状維持、建て替え改修、利用の見直し、廃止・解体というふうに4つに分類して進めているというふうにあったんですけども、利用の見直しであったり、廃止・解体に分類された施設というのは、幾つぐらいあるのか、この施設カルテを見ていると出てこなかったもので、そこをちょっと伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

申し訳ございません。今、詳細の数値を持ち合わせておりませんが、基本的には、施設の中では在り方検討というところでありまして、その時点でなかなか廃止というところの部分では出てきていない。また今後、個別の施設計画というものを、改めてこの次のステップでつくっていくということになりますので、そういったところを含めまして、一体的に考えていくということになるかと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

1点ちょっとお聞かせいただきたいんですけども、これから、このまんま公共施設を維持させていくというのは、この数を維持するというは無理なんじゃないかなというふうに思ってますし、市としても、今後、近い将来、公共施設の廃止もしていかなければいけないという考えの下、取組を進めているのか、ここを1点お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

昨日、松尾議員のご質問の中でもありましたとおり、そういった今ほどの廃止等々につきましても、選択肢として考えているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

そういったお考えで進めていかなければいけないというふうに私も思いますし、それを進めるためには、地域との話し合いというのも突っ込んでいかなきゃいけないと思うんです。そうなったときに、今までも例がありました、廃止をしようと思っていたのにできなかったというケースもある中で、今後、地域との懇談であったり、そういった情報の共有というのをさらに進めていかないと、庁内の中で廃止します、決めました、地域に話しに行くんじゃない、こういう利用、将来が見えるわけじゃないですか、こうなっていくというのをしっかり説明する必要があると思うんですけど、今後そういう取組というのはいかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

これまでも、小学校の閉校であったり、喫緊では、近いところでは権現荘であったりというところで、今地域の説明会に入っていったというところがございます。現時点では、なかなか庁内での検討がというご指摘のとおりのところもありますけども、いずれにしましても広く住民の皆様とは、しっかりと話をしていく、理解を得ていくという姿勢は持っていくというふうには考えております。その中で、庁内検討に当たっても、その先を見据えて、しっかりとスピード感を持って取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

信じております。

保育園の民営化について、適正配置でお聞きしたいと思います。

1月、2月と対象となる保育園の保護者に対して、適正配置と民営化についてというところで懇談、説明会を行っていますが、どの園で行ったのか、また、保護者からはこういった意見が上げられたのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

12月に市議会のほうに園の民営化と適正配置に関する方針をお示した後、これまでに、公立園では、糸魚川東保育園、やまのい保育園、中央保育園の3園、私立園のほうでは、能生保育園、いくみ保育園、ひまわり保育園の3園で実施いたしました。保護者の皆様からは主に、まず、なぜ民営化するのか、またスケジュールはどうなるのかといった基本のご質問ですとか、あと保育士が全て入れ替わってしまうのではないのかといったご不安、また、新たな費用負担は生じないのかといった、そういったご質問のほか、そもそも民営化することで、どのように変わるのがよく分からないといったようなお話もあったり、サービスがよくなるならメリットは感じるけども、サービス向上が図られて助かる部分もあるんですけども、利益追求とならないように子供の成長もしっかり見守ってほしいといったようなご意見だったり、ゼロ歳児の預かりにも力を入れてほしいといった意見、また、たとえ民営化したとしても、公立と私立の交流は進めてほしいといったようなご意見がございました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

適正配置であったり民営化ということについて、今、3園、私立も含めたら6園になるんでしょうか、説明あったんですけども、一部の園だけでなく、市全体としての保育環境に関わってくる事柄だというふうに捉えております。今後、保護者の役員会等だけでなく、各園の保護者に対しても、市としての考え方ということで懇談していく必要があると思うんですけども、そのお考えとスケジュール感、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

適正配置と民営化につきまして、民営化のほう若干先行して取り組める部分もございまして、今安定的な運営が図られると思われる園児数が60人以上の公立園の3つの園から、今、議員、保

護者の役員とおっしゃいましたが、全ての保護者を対象に実施させていただいているところがございます。民営化だけではなくて適正配置も含めて対応していく必要があるというふうに考えておりますので、他の公立園でも、今後、説明のほうはしてまいりたいというふうに考えておりますし、また、私立園のほうにつきましては、運営する民間の法人さんと調整ができたところから、順次行っておりますので、そのように進めていきたいと思っております。市の方針として決めましたので、全ての保護者の皆さんから知っていただきたいと考えております。また、具体的に動きのある園等では、今後、段階的に説明をしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

民間の事業者なんですけど、令和8年度から、令和8年度以降ということなんですけど、私のところに話あったのは令和8年から、もうやるんですかというようなお問合せもいただいている中で、その不安としたら、要は令和8年度に誰が運営に入ってくるのかということも気になっていて、私からはそういうことじゃないということは説明したんですけども、民間の事業者のめどというか、目星というのはついてるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔教育委員会こども課長 室橋淳次君登壇〕

○教育委員会こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

令和8年度からというのは、12月に議会のほうに提出しました資料の中でも具体的なスケジュールとして、一番早い場合で8年度以降に民営モデル園の開園というようなことでお示ししてありまして、その資料が、保護者の皆さんのお手元等に渡ったときに、もう8年度からなのかというふうに受け止められた部分もあるのかなというふうには思っております。

今、並行しまして、民営化に関する事業者さんのサウンディング調査といったところも行わせていただいております。また、こちらの結果につきましては、ちょっとまとめた上で、ホームページ等でも公表したいなというふうには思っておりますが、3社の方からお問い合わせいただきまして、個別にちょっと意見交換をさせていただいたというところがございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

本当に民営化についても、決まったことに対してはスピード感を持ってやっていただきたいんですけども、それまでの保護者との対話とか共有というところは、しっかり丁寧にやっていただきたいというふうに思います。

次に、小学校の適正配置の検討について伺います。

統廃合も含めた小学校の適正配置については、松尾議員のところでは令和7年度から検討というようにあったと思うんですけども、今まで、今日までは、こういった検討がされてきたか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古川子ども教育課長。〔教育委員会子ども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会子ども教育課長（古川勝哉君）

庁内委員会のほうで、児童数の推移、それから学校の改修計画、社会教育と学校との融合による教育力の向上、それから小中一貫教育などの視点から、検討を3回行いました。それから、富山県の義務教育学校と小中一貫校の視察を行っております。また、その庁内委員による学習会も講師を招聘して、1回行いました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

令和5年度は135人だったのでしょうか、出生数。140人を切る出生であり、この数字は、五、六年後の全小学校の1年生を合計した数字だと思います。この6年後、2030年でもいいです、2030年、5年後の全小学校、各小学校の全校生徒の推計というのが分かれば、累計数が分かればお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古川子ども教育課長。〔教育委員会子ども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会子ども教育課長（古川勝哉君）

令和12年度になるかと思うんですが、全小学校、小学生、合計で1,017人になります。

失礼いたしました。各学校においては、磯部小学校21人、能生小学校117人、南能生小学校5人、中能生小学校24人、下早川小学校41人、大和川小学校90人、西海小学校29人、糸魚川東小学校232人、糸魚川小学校250人、大野小学校34人、根知小学校8人、田沢小学校79人、青海小学校87人です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

市内には、現時点で全校生徒40人を切る小学校が5つ、そのうち2校は15人以下、今お話聞きましたら、5人、8人、一桁台の小学校も出てきます。極端な話、この統廃合に、適正配置についてなんですけれども、その小学校に通う児童がいなくなるまでなのか、どこまで小学校を存続させていくというお考えなのか、どうお考えか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 古川勝哉君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（古川勝哉君）

今後の児童数の推移や減少による様々な変化や影響などを保護者や地域の方に丁寧に説明しながら、保護者、また地域住民の要望や気持ちに添えるように進めていきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

今までもそういった答弁ありまして、統廃合においては、地域の考え、保護者の考えが重要であるというふうにお答えありました。私も、そこを無視してやれるものじゃないというふうに思います。ですが、保護者が統合を望んでも、例えば地域が存続を求めた。そういった場合、保護者の意見を重要視するのか、地域の意見を重要視するのか。これは本当に公共施設全体に言えることなんですけれども、これまでも例がありましたんで、地域が残してほしいというものに対して、残していくんですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

轟本教育長。〔教育長 轟本修一君登壇〕

○教育長（轟本修一君）

お答えいたします。

今までの閉校・統合の事例等、何校か私も経験してまいりました。やはり今ほど議員さんがおっしゃるように、地域の合意形成というふうな部分のところで、保護者と地域住民とが、なかなか一緒にならなくて非常に時間がかかったというふうなところもあります。そういった意見の食い違い等があった場合に、やはりそこでは地域だけに任せるんじゃなくて、教育委員会もその中に入って、本当に反対だけどうしょうがないなというふうな部分のところ含めて、要するに合意形成というふうな形を取った上でないと、なかなか前に進めないというふうな事情があります。

教育委員会が中に入るということはどういうことかということ、やっぱり子供たちにとって望ましい教育環境とはどういう環境なのかということと同時に、小規模校は小規模校のよさがある。やっぱり集団で学ぶ、大規模校には大規模のよさがある。けれども、将来的に見た場合に、子供たちの成長にとって、よりベストな学ぶ環境というのはどういう環境なんだろうか、もう一回考えようというふうな部分のところから始まると私は思います。そして、学校がもしなくなったとしても、閉校で学校が閉じられたとしても、その学校を地域としてどういうふうに活用していくのか、利活用ですよね。そして、地域の教育的な文化・伝統みたいなものがどんなふうな形でもって統合先の学校の教育課程の中に位置づけられるのか。学校はなくなったとしても、でも、とりでとして学校があることによって、その地域の文化やいろんな伝統が、新しい先の学校の中の教育課程に位置づけるんだというふうな部分になったときに、初めてより広範囲の中のふるさとというふうな部分の理解に至って、合意形成みたいなものになっていくという部分のところを私も体験的に経験したことがありますので、やはり時間がかかるかもしれないけれども、あくまでも対立は対立のまま

じゃなくて、やっぱり丁寧な合意形成のためのアクションというふうな部分の中に教育委員会もしっかり入って一緒になって考える中で、よりベストな子供たちの学ぶ環境というものを考えていきたい。それが地域をつくることになるし、地域のコミュニティみたいなものをうんと大事にするということに重なると私は思っています。そんな意味合いで捉えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

私も今まで一般質問で何度か取り上げて、教育において、どういった環境で学ぶかということは非常に重要であるというふうに捉えています。本当に人数だけで統廃合云々という話は、もう違うと思うんですけども、子供の成長を第一というところに重きを置くと、やっぱり社会性であったり協調性であったり、コミュニケーション能力というのを養うためには、ある程度の、ある程度って何人だって話なんですけど、その中で学んでいく、成長していくという過程が重要であるというふうに思うんです。今ほど教育長からも、少人数なら少人数のよさで、人数がいれば人数、そこをしっかりとっていききたいと、今後やっていききたいというふうにお話あったんですけど、もう今決めなきゃいけないんじゃないかなというふうに思ってます。それをもう人数が分かってる中で、何ていうんだろかな、現場との共有から少し逃げてるんじゃないかなというか、やっぱりちょっと壁を作ってるんじゃないかなというふうに思うんです。これをやっぱり教育を進めていくためには、市の考え方をしっかりとって行って、少人数なら少人数のよさとかではなく、糸魚川市としてどういう教育があるべきだと、そのために進めていくというビジョンがなきゃ駄目だと思うんです。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

教育行政を預かる立場にとって、教育ビジョンをどのように描くかという部分については、地域からの問合せなくても、しっかりとってなきゃいけないというふうに私は基本的に考えています。そうやってきたときに、今ほど地域のほうの、地域住民の合意形成って話しましたけれども、地域の声を待ってるというふうな、その時間が大変大事なんです。その中で私たちは、令和5年度から庁内委員会で、先ほど課長が話したように学習会、そして、これからの糸魚川の教育ビジョンというふうな部分のところの作成に向けて動き出しています。令和7年度も継続して審議していくんですけども、ビジョンがある程度まとまった段階で、やはりこれは地域からの声を待つばっかじゃなくて、糸魚川市の教育行政を預かる教育委員会としてこのようなビジョンで今現在構想しているんだけど、描いてるんだけど、その描きの中にはこういった思いや願いを込めて、将来的にこんなふうな子供たちを育てるために、ベストな教育環境というのはこういうことじゃないでしょうかというふうな、提案型も含めて、情報提供するような機会を、私は持ちたいと思ってるんです。そのために時間が、今ちょっとかかっているというような経過をご理解いただきたいというふうに

思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

本当に教育長からそうやって熱を込めて言っていたら、分かりましたと言うしかないんですけども、本当にこの何ていうんでしょう、本当に一年一年、もうすぐ進んできて、気づいた頃には、ということにならないように、本当に進めていっていただきたいというふうに思います。

次、補助金カルテのところなんですけど、補助金カルテを見ると、市の支援事業、補助金事業というのが115事業あるというふうに記されておりますが、この補助金カルテを作成した目的というのと、いつ頃策定して、今検討に取りかかっているのかというのをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

補助金カルテにつきましては、先ほど市長からのご答弁もございましたけども、事業の実施状況、また成果を確認するものとして、現在は、新年度予算編成時の参考として使っているというものでございます。

それで、今ほどいつ頃から使っているのかというご質問の部分では、予算編成時の資料としては、令和5年度からだと思っておりますが、使い始めてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

このカルテ見てみますと、1次評価では、補助金の妥当性、有効性、効率性、公平性の4つのポイントを判断基準としています。2次、3次の評価では、貢献度と優先度という基準に総合評価をして、各事業の評価、精査されているということが分かりますが、1次から3次までの評価の流れと、どのタイミングで評価しているのかというのをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

補助金カルテの作成につきましては、現在は、当初予算編成の要領の中で簡単にお示しをして、その要求の内容を検証するものとして、まず作成をするということにしております。

1次評価につきましては、担当係長または担当者が、評価を行う。2次評価は、担当課長が行うこととしております。3次評価につきましては、本来であれば担当課以外のところでの評価、外部

評価的なところ、庁内であっても外部的なところで全庁的な評価委員会などを設置して、事業評価を行うべきだとは思っておりますけれども、現在のところは、そこは取組としては行っていないというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

行ってない理由というのはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

現在、私どもの見直し反省点の一つでもありますけども、予算編成時に担当者レベル、つくったところとしても、そこをしっかりと考えて、廃止なり増額、いろいろな考え方ありますけども、そこまでしっかりと煮詰めるには少し時間が、十分な時間が取れてないなというところでございます。そういった点を今反省として、今後の対応を考えているというところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

2次評価で総合評価が示されるんですけど、今、課長おっしゃったように、現状維持というのがほとんどです。その中で、業務改善を図るといふ、要は事務的な仕事なんでしょうか、を図るのが10数件で、廃止に向け調整というのが1件、拡充・拡大が1件、それで、カルテを活用した見直しであったり改善というのは、今後どのように進めて、これを改善計画を進めていくんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

補助金カルテの作成する意義というのは、今ほどお答えさせていただいたとおりでございます。補助金の有効性であったり補助金を継続する、拡大、廃止も含めたそういった検討の材料にしていこう。ひいては、予算要求に反映させたいというところでございました。

今後としましては、今ほどの先ほど申し上げた課題等もございますが、今現在115件という件数でございますが、実際には、補助金の内容としては、まだここからも漏れているものがございますので、今後は全庁的な取組として、しっかりと拡大をしながら、そのやり方、進め方というのをいま一度しっかりと振り返って検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ぜひ担当課で個別の事業やっつてるとお思いますんで、延ばすところ延ばす、諦めるところいいましようか、廃止して、そうじゃなくて、もっとこっちを延ばすんだという意味での前向きな検討というのをしっかりしていただきたいという、それをすることによって、本当に市民ニーズに沿ったものに、理想に近づいていくというふうに思いますんで、どうぞよろしくお願ひいたします。

施設利用のところでは伺います。

現在、市が運営している施設で、市民利用料金と市外の利用料金というので、市じゃない人の利用料金というところで、分けている施設というのはあるんでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

すいません、詳細につきまして手元にございませぬけども、市外利用者の多い、例えばスキー場、フォッサマグナミュージアムなどにつきましては、令和5年度に見直しをしている。令和6年度には、ジオパル、ホワイトクリフなど、そういった高浪の池のキャンプ場の料金改定を含めて、そういったところで、そういった市外のお客様を意識した料金改定を行っているというところでございませぬ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

市長答弁のほうでも、今後そういうふうに進めていくというお話あったんですけども、一例として、須沢のオートキャンプ場を例にお話ししたいと思うんですけども、半数以上が、これは推測なんですけど、半数以上が市外からの利用であるというふうに思っております。このキャンプ場は、ほかの施設から見ても、ほかのオートキャンプ場から見ても、値段設定安く、シーズンになると利用ができない、予約が取れないという状況が続いています。このピークというのが7月から9月であつたりするんですけど、そのピークのときの値段も上げるみたいな、需要があるときも上げていくとかという方法もあると思うんですけど、そういった観点からの検討というのでも進めていただきたいというふうに思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

お答えいたします。

そうですね、施設のピーク、利用実態をしっかりと私どものほうでも、いま一度確認をしまして、そういった観点を持って、見直しができないかも含めて、検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

収益の確保というところと、ぜひとも市民優遇の施策といたしましてフォッサマグナミュージアムであったりというのも、値段上げたけど、市民も一緒に値段上がってますよね。やっぱり市民は使いやすく、外からは頂くというような考えも一つあるのかなというふうに思いますんで、様々な角度からご検討いただきたいというふうに思います。

続きまして、若手職員のところでお聞きします。

第4次行政改革大綱の重点項目の一つとしても、人材育成と職員の意識改革という項目があります。この令和4年度から6年度の取組項目として上がっているんですけども、組織及び業務実施体制の見直し、職員の資質向上と意識改革というのを上げられてますけど、今年度が最終年度でございますが、今までどのような取組があつて、どういった成果があつたか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

嶋田総務課長。〔総務課長 嶋田 猛君登壇〕

○総務課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

若手職員の人材育成につきましては、長い目で、公務員の年数の中で、やはり最初の時期ということで、やっぱり大切な時期だというふうに捉えております。そういった中で、若手職員をターゲットにした人材育成の中では、現在、職員提案ということで、様々な事業提案ということで、人口減少対策、今年の例でいいますと、人口減少対策に特化した提案をいただいたりしております。

そういった中で、今回、若手職員グループ5人が1組になりまして、約30ほどの提案をいただいております。まだ具体的な施策、また事業への展開というのは結びついておりませんが、こういったものを継続的に実施する中で、若手の柔軟性を持った考えといったものを事業、さらには施策に反映してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

昨年7月に北九州市に、我々会派で、若手職員の積極的な市政運営への関わり方というところで視察に行ってきました。北九州市では、若い世代に特化したZ世代課というものを新設し、若い感覚で諸課題の解決に取り組んでいるということを知りました。

このZ世代課の設置背景には、若い世代の転出が続いていて、若い人たちに魅力的なまちづくりにしていきたいというふうにトップの指示の下、設置されたという、市長の指示の下、設置されたというふうにあります。Z世代課の職員は12名、課長は40歳、平均年齢は28.3歳、事業内容としては、当市のワカチカであったり、若者交流事業に近いものが展開されておりました。

1つ大きな違いが、大きな違いというか、こういうのはいいなと思ったのが、各分野にまたがる若者施策に対して横断的に推進し、その世代のニーズに沿った施策となるよう各担当課に意見を伝

えるというふうな役割も担っているということも学んできました。

ここでお聞きしたいんですけれども、この施設カルテであったり、若者施策、施設カルテの見直しであったり、若者に対しての施策であったり、若者だけじゃなくて糸魚川市全体の施策に対して、20代、30代の職員の意見というのはどの程度反映されて、尊重されているんでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

猪又財政課長。〔財政課長 猪又悦朗君登壇〕

○財政課長（猪又悦朗君）

今ほど施設カルテであったり、そういったものを予算編成時等も含めて、各担当課では、しっかりと若手職員が要求をして、検討が行われているというふうには理解しております。

ただ、全庁的な取組の中では、今、議員の言われるところもございますけれども、しっかりとそういったところを聞く体制という部分では、まだまだ成熟していないというふうに判断しております。今後そういった取組につきましては、総務課、関係課含めまして、職員の年齢構成等配慮できないか含めて、取り組んでいく方向で少し検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大嶋総務部長。〔総務部長 大嶋利幸君登壇〕

○総務部長（大嶋利幸君）

補足して、答弁申し上げます。

冒頭、嶋田総務課長が申しあげましたように、現時点では事務事業の提案ですとか、そのレベルで、この事業とこの事業が若手職員の提案というところまではまだ至ってない状況です。

ただ今後、限られた職員の中で、より効果的で分かりやすく、そういう取組にしていくためには、当然若手の職員の意見ですとか考えも取り入れる必要が出てくると思いますので、今ほど議員言われた補助金のカルテですとか、公共施設のカルテとか、あとそのほかの政策の決定の段階で、どの程度どう入るかということは、その仕組みはこれから考える必要があると思いますけど、そういうものを十分生かしていく時期に来ているというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ありがとうございます。よろしく願いいたします。

糸魚川市でも、今、若手が立ち上がってSNS、インスタグラムの運用を開始してると思うんですけれども、この取組に期待していること、どういった成果・効果が持てるとお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

嶋田総務課長。〔総務課長 嶋田 猛君登壇〕

○総務課長（嶋田 猛君）

今回、若者の5人1組のグループをプロジェクトチームとして、今回インスタグラムを昨年12月から運営しているところであります。こちらの目的につきましては、若年層の利用者が多い情報通信ツールでありますインスタグラムを利用しまして、糸魚川市の魅力、また暮らしをイメージさせる情報発信を行いまして、UIターンや関係人口の増加を図ることを目的としております。

ただ、こちらのほう、議員も見て分かりますとおり、市内に住む方にとっても、ちょっと見たことのない風景だったり、捉え方といったものがインパクトも与えるというふうに考えております。そういった中では、糸魚川市に関わる全ての方々に糸魚川市の情報発信を的確に、また違った目線で、伝えてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

北九州市のほうは、市長からの指示で若手が動いたというところなんですけど、今SNS運用してる若手職員は、自ら提案して、ここまで自発的に動いて、ここまでたどり着いたってところは、もう本当にすごい、これからの糸魚川市にとってすごく重要な行動であったと思いますし、存在だというふうに受け止めています。この職員がメインとなって、キターレでトークライブがありました。私もそのトークライブに参加したんですけれども、この若手職員の目標、いっぱい掲げてたんですけど、その目標の一つの中に、新たな課を立ち上げたいというふうなお話がありました。具体的にどんな課を立ち上げたいという話はなかったんですけれども、私が感じたのは、自分たちで責任持ってこの糸魚川市をつくっていくんだという気持ちの表れであるというふうに捉えております。今後さらにこういった若手職員であったり、若手だけじゃなく職員全体が糸魚川市をつくっていくんだ、これからのためにというふうに動いていってほしいと思うんですけれども、そういった意識改革というのを、さらに継続していってほしいと思いますし、そこら辺については、どう今後、展開されていくお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

嶋田総務課長。〔総務課長 嶋田 猛君登壇〕

○総務課長（嶋田 猛君）

今回もその若手職員グループから新たな組織の設置ということで事業提案をいただいた中で、マーケティング課の設置といったような提案もいただいております。そちらにつきましては、糸魚川の様々な課題をしっかりと分析して、それを行動に移していくといったものが主であるというふうには捉えております。

そういった中で、若手が動くことによりまして、それが職員全体に、また横展開をして響いていくといったものが、こういったことの効果であるというふうに考えております。引き続き失敗を恐れずに挑戦していく、そういった若手の姿といったものを庁内全体にも広げまして、職員全体、ひいては糸魚川市全体が、輝いていけるような形で対応してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

そうだったら本当に最高だと思いますので、ぜひともよろしく願いいたします。

続きまして、観光振興をお聞きいたします。

この春から開催される大阪・関西万博に糸魚川のヒスイが展示される予定であります。それによって糸魚川市に、そして、ヒスイに対しても注目が集まるというふうに思ってますし、そうなることを期待しております。この観光振興を展開していくに当たって、非常に重要な点であるというのが目的、観光客の目的と、今ほど親不知、ピアパークとか様々なところがありましたけど、そこに移動する手段というのも重要なことだと思うんです。外から来て、どういった交通手段で来てるのかどうか、どうやってそこに行ってるんかというのも重要だと思うんですけど、その把握というのはされていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

先ほど市長答弁がありますように、観光客のニーズにつきましては、観光動態調査で把握しているつもりでございます。

また、観光客が当市に訪れる手段といたしましては、やはり車か鉄道しかないのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

新幹線利用が増えてるというふうにお話あったんですけど、私、市のほうでちょっと見たら、減少傾向の数字を見たもので、間違っていたんだったら申し訳ございません。それで、北陸新幹線が糸魚川駅を通ってるという、糸魚川を通ってるというのは、もう利便性としてはすごく高ポイントであると思うんですけど、東京－敦賀間の1個の駅というふうに捉えると、相当な観光地がある中で、糸魚川市に降りてもらふ、目的を持って降りてもらふというのは、かなりハードル高いんじゃないかなというふうに思います。今のまんま続けていくと、多分この感じは変わらないんですけど、糸魚川市に降りてもらおうと思うと、もっと展開していかなくちゃいけないと思うんです。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

北陸新幹線が開業しまして、やはり糸魚川市は古くから交通の結節点と言われておりましたので、

交通網の強化が図られたんじゃないかなというふうに感じております。北陸新幹線、関東圏から乗車いたしますと、最初に日本海が見えるという話題性もありますし、関西圏から言わせますと、新潟県の西の玄関口、また白馬エリアの玄関口ということにもなります。今までの観光メニューに膨らみが広がってきたんじゃないかなというふうに感じてはおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

今ほど白馬という言葉ありましたのでお聞きするんですけど、白馬に来る人、インバウンド客は新幹線で来て、バスであったり大糸線に乗って白馬という流れがあるというふうに田中議員の答弁であったと思うんですけど、そうなると、移動は日中であって、乗換えの時間がすごく限られたものであると思います。この糸魚川に滞在、間違いなく滞在してるわけですよね。その間にどうやってお金を使ってもらうか、消費喚起というところは、どういったことをやられているか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今ほど阿部議員のおっしゃるように、インバウンド客は糸魚川駅で降りて、大型バスに乗りまして、白馬方面のほうに向かわれている方が大半ではないかなというふうに思っております。やはりそのようなインバウンド客を、糸魚川市内でお食事だとか寄る観光地とか、様々な場所を巡るようなメニューづくりが必要だというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

どういった展開をされていきますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

やはり観光メニューとしましては、着地型観光ということで、食事メニューもセットとなりました観光ルートの創出をしていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

すいません、今現状を昼、やっぱり夜、要は糸魚川に来てもらうなら、食事と色々なセットができると思うんですけど、この限られたとこだと思うんです。宿泊施設についてもちょっと一緒に聞きたいんですけど、現状、日によっては宿泊できない、イベントが重なると宿泊できないという日もある中で、これから万博もありますとなったときに、インバウンドも増えてくるであろうところで、糸魚川として、要はお酒を飲んでもらったり食事を食べてもらうというのは、やっぱり夜が多いんじゃないかなというふうな考えの下、お聞きするんですけど、要はホテルがなければ、お酒を飲んで、そこで滞在するというのは、ほぼほぼ難しいんじゃないかなというふうに思うんです。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今ほど阿部議員おっしゃるように、夕食を、アルコール等を取った場合は、やはり宿泊施設がなければ、なかなかそのような行動には移れないかなと思っております。先ほど市長答弁がありましたように、民間のほうでは、宿泊施設の建設の予定というのもお聞きしておりますので、その動向をやはり注視していきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

万博がこの4月13日から開催されて、秋までですかね、その中で、もう本当に目の前に迫っている中で、今までどんな検討がされてきたんでしょうか、万博を契機に糸魚川市にどういった効果があるとか、どういった人が来るという調査、調査というか検討があったのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

万博につきましては、糸魚川市単独の主催の催物ではなくて、県と連携したものになっております。県のほうでは、委託によりまして、どのような観光ニーズがあるかというのを把握しているというふうに聞いておりますので、その結果によりまして、催事物を今検討してる最中でございます。

やはり糸魚川市としますと、先ほども市長答弁ありましたけど、ヒスイを契機としまして、ARアプリ等を活用して、糸魚川市のPRのほうに努めていきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

五十嵐産業部長。〔産業部長 五十嵐博文君登壇〕

○産業部長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

万博に関して申しますと、これは日本国内だけではなくて、海外の方の注目が集まる場所です。静けさの森のヒスイですとか真柏、具体的にこの積み上げというよりは、糸魚川ということはどうやって知ってもらうかということをしてPRする、そういうちょっと泥臭いですが、そういう活動のために担当課のほうでは、駅のほうに出向いたりとか、今まで万博会場でどのようなPRをすればいいかということをして4月13日の開幕に向けて準備を進めておるところでございます。注目を浴びる取組をすると、糸魚川を知ってもらうような取組に注力をしたいというところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

あと1か月半後に始まるものに対して、今まだ検討されとるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

万博での催しは6月と7月に予定されておりますが、その内容につきましては、県と調整しながら決めておまして、ある程度のことにつきましては、決定はしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

万博の話で、糸魚川市のヒスイが展示されるってことなんですけど、このヒスイに関しては県が用意したものと聞きしているんですけども、であつても積極的に観光であつたり誘客というものに活用できると思うんですけども、県との協議というのは、どの程度進んでるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

万博に設置されるヒスイにつきましては、今ほど阿部議員がおっしゃるように、県のほうが手配したものでございます。その後の活用につきましては、いまだ協議のほうは進めてはおりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、ヒスイに関しては、今、静けさの森、県が主体になっておるわけですが、市もかなり積極的にさせていただいております。どのような形でいけるかという形の中ではさせていただきとるわけですが、今、6月、7月の我々が担当するブースに対しての今、詰め方をこれからしとるわけですが、メインについては、やっぱり糸魚川の特色をしっかりと出していく。その中で、糸魚川の特産もどのように今していくかというところで、今詰めておる状況でございます。やはり、まず情報発信をすることによって、今度、今ご指摘のように、受皿は、じゃ、どうするんだというところがあるわけですが、その辺はやはり今ある、我々の資源を、また、ある施設を生かすしかない状況でございますので、それをやはり行政だけでなく、やはり民間の皆様方とどのように一体感を持ってやれるかというところが課題かと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

万博という舞台でヒスイが飾られるというところは、本当にまたとない機会だと思いますので、ぜひとも何も活用されなかったなんていうことがないように、ぜひともお願いしたいと思います。ヒスイ保護について伺います。

マナーに委ねるところであったんですけど、現状のその対応では、ヒスイの保護というのにはつながらないんじゃないかというふうに危惧しているんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

宮島議員の質問の中でもお答えさせていただいたと思いますが、やはり罰則規定等、そういった法令をつくるには、やはり関係者も多くおることから、時間がかかると思っております。つきましては、まずもってマナーの周知徹底を図らせていただきながら、あわせて、そのような罰則規定等の法令を検討していきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

青海川硬玉産地の整備基本計画にもあるんですけども、課題として、指定地の境界を示してい

ないため明確にしなければならないというところで、私、むちゃなこと言うかもしれんですけど、天然記念物のエリアをめっちゃくちゃ広げてしまえば、取れないんじゃないかというふうに思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

嵐口文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 嵐口 守君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（嵐口 守君）

天然記念物の範囲でございますが、これはやはりあまり拡大することについては、文化庁は通らないとは思いますが、今後、整備計画がある程度の段階へ行きましたときに、1回検討するというのは、文化庁の調査官とお話をさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

むちゃを言ったなというふうに反省しておりますが、そのぐらいの気持ちで保護に行ってほしいと思います。マナーに委ねるってとこだけじゃ、私は厳しいんじゃないかなと思いますんで、ぜひとも検討をお願いします。

この監視カメラの設置の取組についてですが、きらら青海のところであったり、ヒスイふるさと館であったりってとこ、ヒスイふるさと館なんですけど、セキュリティ整備が整っており、当面整備しないというふうになってるんですけど、セキュリティできてますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

仲谷青海事務所長。〔青海事務所長 仲谷充史君登壇〕

○青海事務所長（仲谷充史君）

お答えさせていただきます。

ヒスイふるさと館につきましては、開館中につきましては管理人がおります。それから、開館以外の時間につきましては、警備会社によるシステムにより管理をしているという状況でございます。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

管理人の方がおられるというんですけど、見たことがないというのが現状ですので、ぜひともよろしくをお願いします。何をよろしくをお願いします。

続きまして、ヒスイ峡を結ぶ林道について、この林道というのは本当に重要な路線になってくると思いますが、もし開設できたら、文化、教育、地域経済、観光等へどういった影響があると思いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今ジオパーク活動をしている中において、ヒスイはやはり中心な鉱物でございますし、そして、やはりその産地としては小滝川、そしてまた青海川という形の2局になって見えるわけですが、やはり冬期間は駄目といたしましても、そのほかの3シーズンつなげることが、やはり一番大切ではないかなと思っております。どういう形でいけばいいのか、いろいろ大変かとも思います。しかし、これはもうヒスイを売っていく、また、ヒスイを売り物にして、これから糸魚川の中で活用していくという形になってくると、私といたしましては、両方のヒスイ峡は結ぶことが大切かなと。そして、やはり自然を生かす中においては、いい資源を持つとりながら、それを生かせない部分が結構見受けられるわけでございますので、そういうやはりナンバーワンのものは、それなりの扱い方をしていかなくちやいけないんじゃないかなと思っておりますし、そういった結ぶ道というのは、やはり一つの大きな前進につながると思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

阿部議員。

○2番（阿部裕和君）

ありがとうございました。

○議長（保坂 悟君）

以上で、阿部議員の質問が終わりました。

ここで、暫時休憩いたします。

再開を2時35分といたします。

〈午後2時24分 休憩〉

〈午後2時35分 開議〉

○議長（保坂 悟君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（保坂 悟君）

古畑議員。〔16番 古畑浩一君登壇〕

○16番（古畑浩一君）

お疲れさまでございます。

通告書に従いまして、一般質問の大トリを取らせていただきたいと思います。

思えばね、この任期、これが最後の一般質問ということでね、本当に最後、締めさせていただきます。